研究評価委員会分科会の各委員からの所見について（事後評価）

課題名「建築生産におけるワークフロー分析・計画技術の研究開発　－建築生産の合理化を目指してー」

1．主な所見

・ 所見①：建築生産に関してかなりの労力をかけて丹念なワークフロー分析を行い、かつそれを有効に用いる提案を含めて研究成果をあげた点は、評価できる。中間時の指摘に対しても、誠実に対応し、初期目標を十分に達成しているし、その成果自体も興味深いものになっている。
　今後は、官庁営繕部での実践的な適用を視野に、実装段階に入るのが最も相応しい展開の方向だと考える。そして、その実践による効果等を含めて広く成果を紹介することが、この研究成果の一般化への最も効果的な方法だと思う。是非実用化段階の研究に進んで頂きたい。

・ 所見②：建築研究所で行う研究としては、十分な成果が得られたといってもいいが、今後の展開がより重要である。その一つは、官庁営繕部への展開である。このような分析を通じて常に業務改善を行うということが必要であるが、そのためには、官庁営繕部の中にこのような分析およびその見直しを日常的に実施し、業務改善を行うための専任者を置く等の具体的な対応が求められる。もう一つの展開は、官庁営繕部以外への展開である。そのためには、学・協会への発表のほかに雑誌等への投稿も重要である。できれば、作成したワークフローデモシステムとマニュアル（解説書）を商品化して、市販したい。

・ 所見③：全体として、高く評価できる研究業績である。この研究としては、これで一旦終結とするのが妥当と考えるが、今後、できれば別ステージの研究へと歩を進めることを期待する。たとえば、現実のワークに適用した場合の、効果の実証研究など。

・ 所見④：今回の研究開発は、公共プロジェクトの合理化、効率化の可能性を示すものであり、研究から実用化へ向けた次の研究開発が望まれる。最近の社会的ニーズは、公共建築、民間建築とも新築工事から改修工事の比重が高まっている。官庁営繕部・自治体の建築部門にとっては新しい業務プロセスへの対応が必要になっており、このようなワークフロー分析の成果を実際の改修プロジェクトに適用して、業務分析・モデル化をさらに進化させることができれば、実用化が早まる可能性がある。

2．主な所見に対する回答

・ 所見①および②に対する回答：今後、官庁営繕部の実務者に対して研究成果ならびに期待される効用について説明する機会を設け、意見交換を行いながら、ワークフロー分析技術によって効率化が期待される業務の絞り込み、ならびに実務への適用方法等の検討を進めて行きたいと考えている。また、実務への適用状況については可能な範囲でその効果について公表し、実際の適用事例を公表することで、さらに実用化への展開を進めて行きたいと考えている。

・ 所見③および④に対する回答：平成 17 年度より始まるブリーフィングに関する研究課題において，生産情報マネジメントについて検討する予定にしている。この課題の中でワークフローを活用し、各業務のアウトプットとして出てくる図書類や各種記録などの「情報」のマネジメントについて検討する予定である。また、所見④においてご指摘いただいた通り、今後は公共、民間を問わず、改修工事の比重が高くなることは明らかである。建築物の改修に関連する研究課題等において、改修工事の業務分析・モデル化を進めていくことも考えていきたい。